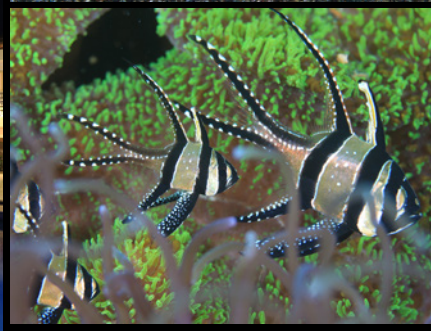
SORA
web magazine 2019.may. vol.107

Indonesia Travel
Lembeh

ココティノス・レンベ滞在
MAP CLICK!

カジュアルに楽しむレンベの不思議な海

Photo & Text : Yasuaki Kagii



変わらず人気のインドネシア・レンベの海。レアなマクロの生き物を求めて世界中のダイバーが訪れる。よりカジュアルに、そしてリーズナブルに滞在して、レンベの海を堪能したい！　そんなゲストの声に応えるように、メナド、ロンボクとダイブリゾートを展開してきたココティノスグループがレンベにやってきた！　コンパクトだが、新しいダイブリゾートと摩訶不思議な海を是非覗いて欲しい。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
We World explorer
（株）ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2018
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

ファーストダイブからトップスピードの海！

KAREKO BAT は、リゾートの対岸にあるレンベ島のポイントで、ボートで約 5 分ほど。緩やかな傾斜の砂地で、砂質は白く明るい感じ。所々に小さなサンゴや大きなカイメンがあり、そこがクリーニングステーションになっている。このポイントならではの水中景観というよりは、レンベらしい海底が続いている。まずは、水深20mにいるピグミーシーホースを見せてもらう。それからは怒涛のごとく生き物のオンパレードで、「もう少しゆっくりで良いですよ!」と突っ込みたくなるくらいガイドさんが生き物を見せてくれる。ちなみに今回のガイドさんは、日本語を話すレンベ出身のハニーだ。ハニーと言っても可愛い女性ではなく、細身だけど頼りになる男性ガイドさん。長く日本人ダイバーのガイドを行い、日本の大きなダイビングイベントにも来ているので、知っているダイバーも多いはず。見せてもらったのは、卵を貝殻の中で守るココナッツオクトパス、ペアのオオウミウマ、ウミウシ各種、セミホウボウ、ウミテング、アオサハギの幼魚である通称タマシイ。そして、ネジリンボウなどの珍種やアイドル種を交互に教えてくれる。最後は、口内に寄生虫を持つクマノミを撮影して終わり、ファーストダイブから70分と、60分の予定を超えるダイビングとなってしまった。

Indonesia Travel

Lembeh

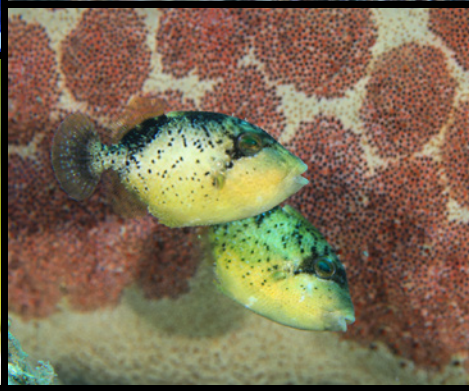
インドネシア・レンベ

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Indonesia Travel

Lembeh

インドネシア・レンベ



AER PRANG-1で、人気のモウミウシ！

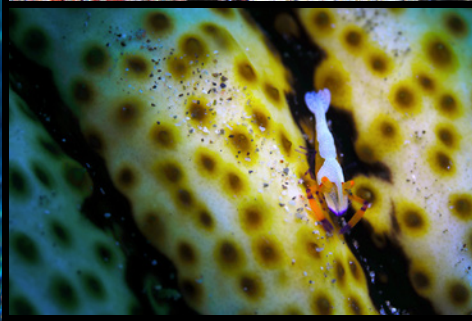
初日の2ダイブは、AER PRANG-１へ。本当は、PANTE PARIGI を予定していたが、リゾートからポイントの様子を伺うと、２隻船が泊まっていたのでポイントを変更。リゾートから、これまた5分くらいのポイントで、レンベ側ではなく本島側は、海底の砂の様子が少し黒い。ポイントの全体的な感じは、砂地にサンゴやスポンジなどが散在し、わりとガレ場のような雰囲気がある。まず見つけたのは、オレンジ色のジョーフィッシュ。上を通ると、小岩を動かし巣穴を少し塞いだ。そして、ガイドのハニーが見せてくれたのが、海藻に住むテングモウミウシ。これが強烈に可愛い。サイズは、米粒ほどで、撮影するには、マクロレンズがあった方が良い。よく見ると顔の中央に黒い目が二つ並んでいる。それが、もう可愛くて仕方がない。私は RGBLUE の水中ライトの光をうまく利用して、撮影に夢中になった。その後も黄色いニシキウミウシが赤いたまごを産卵するのを見せてもらったり、フリソデエビを見せてもらったりした。その途中では、トサカやヤギに擬態するエビなどの甲殻類も教えてもらう。最後は、キヘリモンガラの子供の喧嘩を撮影……。これまた60分を超えるロングダイブとなってしまった。レンベでのダイビングで、水深はそれほど深くはないが、生き物に夢中になっていると、ある程度の深度（例えば15mほど）に長くいることもあるので、できれば、ナイトロックスの使用をお勧めします。

人気のJAHIR I &PANTE PARIGI

Indonesia Travel
Lembeh
インドネシア・レンベ

初日の3本目、ラストダイブは、ジャヒール。リゾートからほど近いポイント。まず印象的だったのが、頭の辺りに大きな黄色いパッチがあるハリセンボンで、目が大きくて、正面顔がなんとも可愛い。申し訳ないけど、少し追いかけて撮影していると、急に水を飲んで体を丸くした。きっと怖かったのだと思う。すみません。また、ウミウシもいろんな箇所にいて、楽しむことができた。最後、ハギの子供ペアは、回転しながら、喧嘩して舞い上がっていた。喧嘩に夢中で、近くで観察、撮影できた。海の中は何が起きるかわからない（笑）。

2日目の1本目は、PANTE PARIGI。昨日ずっとボートが付いていてエントリーできなかったパンテパリギへ。最初は砂地にポツンと大きなマンジュウヒトデがあり、そこにハゼが付いていて、ストロボを使用して撮影すると、真っ赤な色が現れた。その後ガイドさんが、ハナイカやヒョウモンダコを見せてくれる。そして、砂地に擬態するイッポンテグリやナマコに住むナマコカクレエビを披露してもらう。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Indonesia Travel

Lembeh

インドネシア・レンベ

定番のAER BAJOⅢ＆TKⅡ

２本目もレンベ島側で潜る。最初にカイメンのジャングルジムのような場所で、オオウミウマを発見。そのすぐ下の水深で、木片の割れ目に住むミジンベニハゼのペアに出会う。メスはお腹が大きかった。エリアの中にはクリーニングステーションがあり、ウツボやハタがクリーニングされていた。他にデコレイトクラブ、ウミウシ、シーグラスシュリンプ、シャーギーフロッグフィッシュなどを披露してもらった。

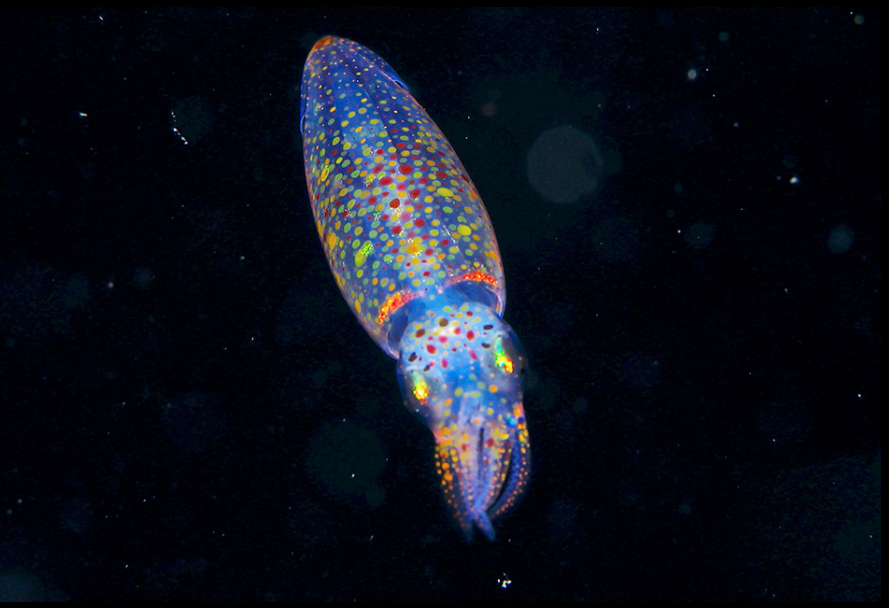
２日目の３本目は、定番の TKⅡへ。レンベ島側で、明るい砂地のポイント。緩やかな傾斜を泳いでいく。いくつかのウミウシをガイドに見せてもらう。面白かったのが、ウミウシの後ろにカナタワシを置いて、横からカラフルな色のライトを当てる演出。まるでステージの中でウミウシがスターになっている。いつもこんなことは全く興味を持たないが、せっかくだからと乗っかってみたら、意外に面白かった。他にもカイメンの中にいるエビも水中ライトによって、撮影しやすい。ガイド陣が巧みにライトを操って生き物を面白く見せてくれる。以前は、レンベのガイドは、指示棒を巧みに使用して、生き物を見せてくれた。今は、ライトも使用する。時の流れを感じる。その後も３匹ものカエルアンコウに出会い、驚いたのは、全身を出して泳ぐ黄色いハナヒゲウツボ、そして、超珍しいウミウシの cyerce（シエルセエレガント）などに出会った。驚きのダイビングだった。

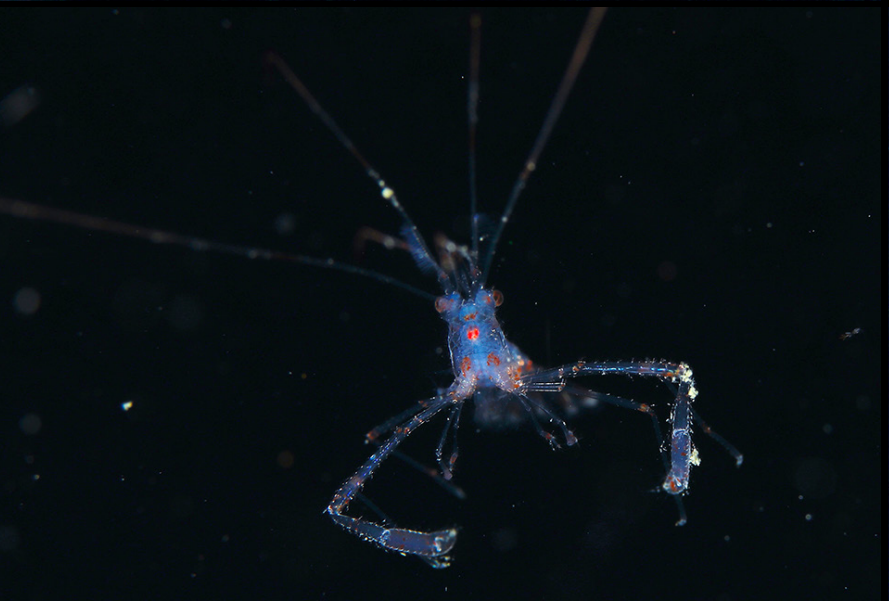
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

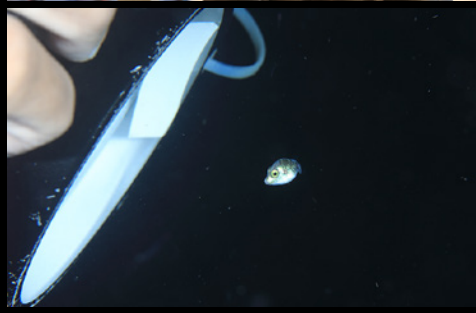
BLACKWATER DIVEは、レンベの新しい楽しみ方！

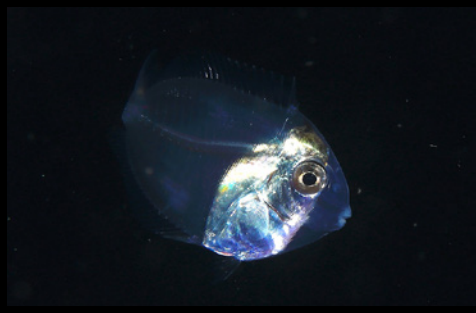
Indonesia Travel
Lembeh
インドネシア・レンベ

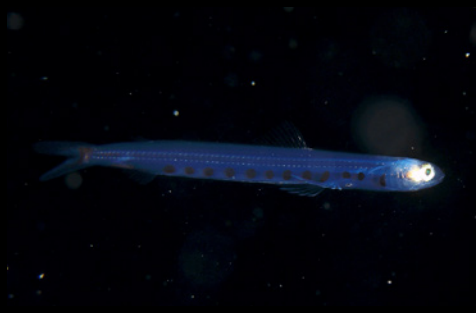
以前ダイブガイドで、現在はココティノスレンベを仕切っているマルティネスが、最もお薦めしてきたのが、BLACKWATER DIVE。日本各地で開催され、人気の BLACKWATER DIVE だが、ここレンベでも催行されていた。６時半にリゾートを出て、少し沖合へ。正直、深場が近くにないので、どうかな?という懸念があったが、生物層の濃いレンベだから、何かがでるだろうと期待。最初にガイドが水中にライトを持ち込むが、数は２つ。何十本ものライトを持ち込む日本のスタイルと比べるとこれまた不安になったが、とにかくこの企画に乗ってみることにした。最初ガイドは、シャコの幼体などを教えてくれる。他にエビの幼体など。こんな感じかな?と思っていたら、ヒラメの稚魚?なのか?しっかり BLACKWATER DIVE で見られる生き物も出現。手軽だけどこれは素敵！ とイメージが変化していく。一緒に潜ったゲストダイバーは、BLACKWATER DIVE が初体験だったが、十二分に楽しんでいたようだ。最後、水深 12m の海底でアオリイカを見つけた。ストロボを当てると七色に輝く。あまりの美しさに、初めてイカに心奪われた……（笑）。





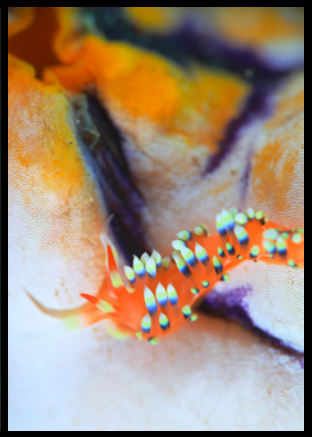






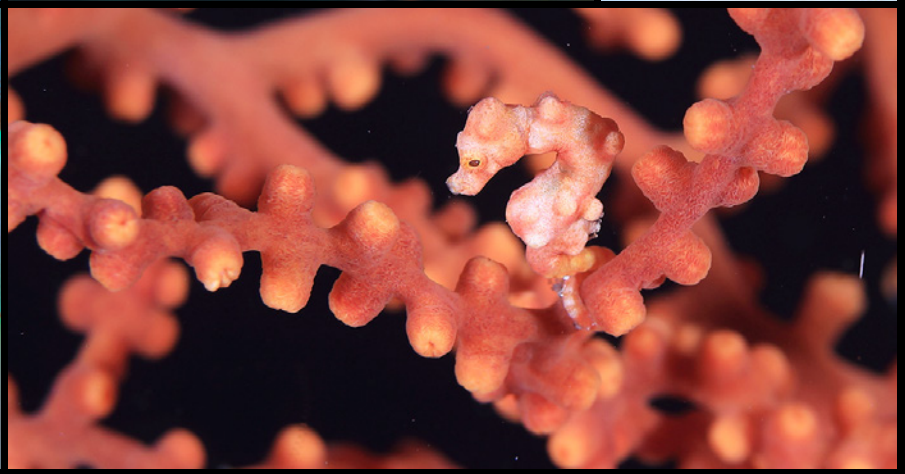
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

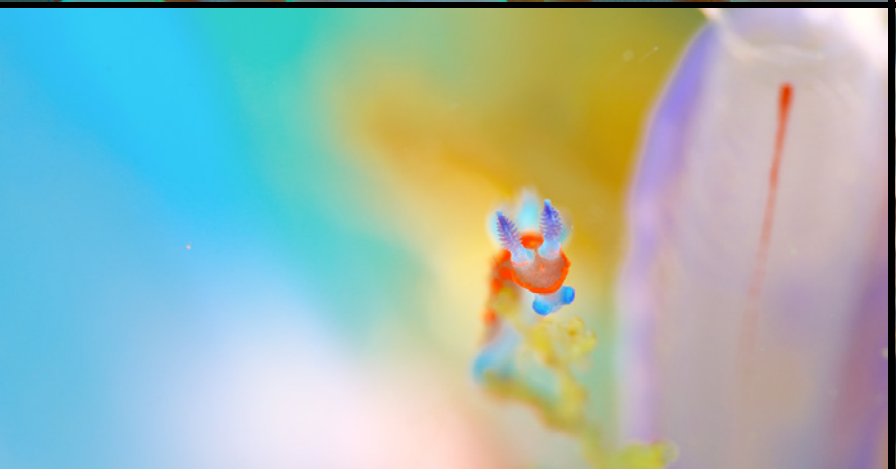
ある意味レンベらしくない、華やかなANGEL'S WINDOW



Indonesia Travel Lembeh インドネシア・レンベ

レンベ島側で、砂地のレンベっぽいポイントではなく、ドロップオフにスイムスルーの穴がある地形も楽しめるポイント。エントリーして海底を一見するだけでも、すぐにレンベの他のポイントとは違うことがわかる。イソギンチャクやカイメンなどの様子が違い、どちらかというと少しメナドのようなトロピカルな雰囲気がある。水深20mまで行き、ピグミーシーホースを見せてもらう。その周辺にスミレナガハナダイがいた。それだけでも昨日までのポイントとは違うことに容易に気づく。そして、カラフルなホヤの周囲でウミウシを見つけ、必死に撮影していると、隣でエソが小魚を捕食していた。慌ててマクロレンズを外して、撮影する。水深20mでなかなか忙しい。その後もタルマワシやウミウシやエビカニ系を撮影。リーフがカラフルなので、背景に変化があり、とても面白い。最後は、大きなオオモンカエルアンコウを２匹見せてもらい、楽しい気持ちでエキジットした。





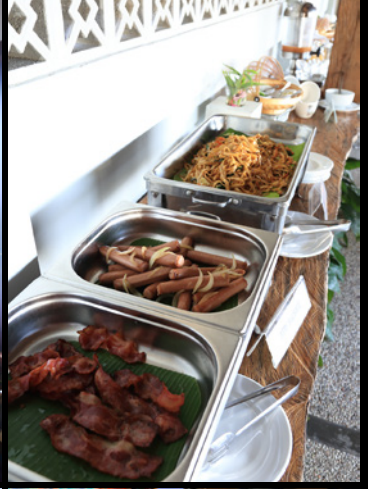
tsumi-shima ダイバーの夢をつみあげていく島

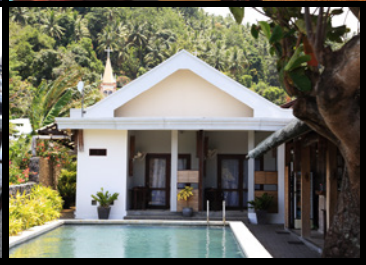
Indonesia Travel Lembeh
インドネシア・レンベ

ヘアリーフロッグフィッシュに会いたくて、BATU SANDAR

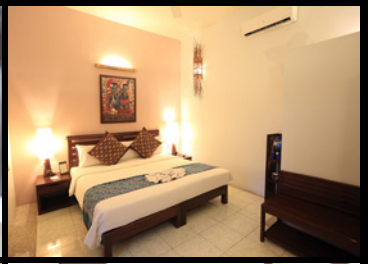
　このポイントもレンベ島側で、砂地が広がる。水深 20m ほどで、ヘアリーフロッグフィッシュの小さな個体と大きなペアを発見。ガイドさんの言う通り、このポイントが確率が高いらしい。同じ水深で、ニシキフウライウオも見つける。少しずつ水深を上げながら、マルチレベルでいろんな生き物を見ていく。カエルアンコウやツノカサゴ、蛍光色のイソギンチャクに住むカクレエビ。このようなポイントに潜るといつも同じことを書くが、何の変哲も無い砂地から本当にいろんな生き物が湧いて出てる感じ。フグとカイワリの幼魚が一緒に泳いでいて、ダイバーに興味津々に寄ってくる。それがとても面白かった。最後は、イカの卵塊を見つけ、ガイドさんがうまくライティングして撮影。すごい数の写真を撮影して、すべてのダイビングを大満足で終えた。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島





今回、滞在した新しいダイブリゾート・ココティノスレンベ



Indonesia Travel
Lembeh
インドネシア・レンベ

レンベはスラウェシ島ミナハサ半島の東側にあるリゾート地。南北約16キロに延びるレンベ海峡の両岸（スラウェシ島とレンベ島）にダイブリゾートが軒を連ねる。メナド空港から車で約1.5～2時間、海沿いにブティックダイブリゾートであるココティノスレンベが誕生した。４つのカテゴリーがある客室は全12室で、エアコン、シャワー、トイレ、冷蔵庫、テレビなどを完備。ミネラルウォーターのタンクもあるのは嬉しい。リゾートの規模は小さいが、カジュアルな雰囲気がとても良い。ダイブセンターやカメラルーム、12mのスイミングプール、そして「Wild Mango Restaurant & Bar」などの施設がある。食事はボリュームもあり、とても美味しく大満足。メナドならではの上手にスパイスを利用した味付けも抜群。ダイビングは１日３ダイブで、８時半、11時半、2時半の出港。ニシキテグリの放精放卵が見られるサンセットダイブ、もしくは、エビカニ、ミミイカ、ナイトしか出ないウミウシ、メガネウオなどが見られるナイトダイブ。他にブラックウォーターダイブも追加で参加できる。大きなボートが２隻。小さいボートが１隻。１グループは５名までで、潜水時間は約１時間。各ポイントまで近いので、１ダイブ毎にリゾートに戻ることが可能。日本語を話せるダイブガイドのハニーがいるので、言葉の心配もない。

tsumi-shima ダイバーの夢をつみあげていく島

もう一つのダイブリゾート
ソリチュードレンベリゾート

レンベのもう一つのお薦めリゾート。ココティノスレンベは、エコノミータイプのカジュアルリゾートで、ソリチュードレンベリゾートは、より充実したリゾートライフを楽しむことができるリゾート。2017年11月13日に正式にオープン(以前はカサワリレンベリゾートだった)。緑豊かな敷地内にバランス良くコテージが並ぶ。これまでのシーフロントビラ２室、ガーデンビラ８室、デラックスルーム２室に加え、新しくデラックスルームが全部で12部屋に増える予定。来年は隣の敷地にも客室が増え、合計22部屋となり、レンベでも大きな規模のリゾートになる。ダイブスケジュールは、朝食後の８時から１本目。11時から２本目、そして、ランチ。午後２時半から３本目となる。追加でナイトダイブも可能。１ダイブ毎にリゾートに帰ってくるスタイルで、日本人のダイビングスタッフはいないが、ゲストリレーションには、森美季さんがいるので安心。